

# 授業実践

1 単元名 「工業生産と貿易」

2 単元の目標

工業生産と貿易に関心をもち、国民生活を支える工業生産と貿易の動きについて進んで調べようとする。

【社会的事象への関心・意欲・態度】

工業生産と貿易が、国民生活を支える重要な役割を果たしていることについて考えることができる。 【社会的思考・判断】

工業生産と貿易の働きや国民生活との関わりについて、グラフや資料を読み取ったり、自分の考えを発表したりすることができる。 【観察・資料活用の技能・表現】

国民生活が工業生産と貿易によって支えられていることを理解することができる。

【社会的事象についての知識・理解】

3 学習計画（9時間）

段階	時	主な学習活動	教師の支援・評価
つかむ	1	わたしたちの回りで、外国でつくられたものにはどんなものがあるだろう。 身の回りにおける工業製品はどこの国でつくられたものか調べる。 日本の主な輸入品について調べる。 ・石油や電気機械をたくさん輸入している。 ・工業原料ってなんだろう。 学習課題 工業生産と貿易は、わたしたちの生活とどのように結びついているのだろう。	家庭にあるものがどこの国で作られたのかを事前に調べさせておく。また、実物を提示して、多くの工業製品が外国との関係で成り立っていることがわかるようにする。 日本の輸入品のグラフに着目し、日本はどんなものを輸入しているのか、なぜ日本でも電気機械をつくっているのに外国から輸入しているのかなどをとらえることができるようにする。 評 わたしたちの回りに、外国でつくられたものがどれくらいあるのかを進んで調べようとしている。 (関心・意欲・態度 ワークシート、発表)
調べる	2	外国から輸入されたものはわたしたちの生活とどのように結びついているだろう。 工業原料にはどのようなものがあるか調べる。 ・石油 鉄鉱石 プラスチック パルプ 製品や工業原料を主にどこの国から輸入しているかを調べる。 工業原料がどんなものに使われているか調べる。 ・自転車 テレビ パソコン DS 紙 うどん 工業製品が自分の生活にどれだけ重要か点数をつけて評価する。	工業原料表を用意し、工業原料が主にどこの国から輸入され、どんなものに使われているかをまとめることができるようにする。 「輸入品の輸入先」のグラフに着目し、アメリカや中国は日本の最大の輸入国であることをとらえることができるようにする。 工業原料からつくられた製品が、自分の生活にどのくらい重要なものを点数化することで評価し、友達と意見交換できるようにする。 評 外国から輸入されたものが、わたしたちの生活を支える大切な役割をしていることについて考えている。 (思考・判断 ワークシート、発表)
	3	日本の工業製品は世界の中でどのように役だっているだろう。 日本の主な輸出品について調べる。 ・電気機械や自動車をたくさん輸出している。 ・繊維品の輸出が年々へっている。 日本の輸出相手国について調べる。 ・アメリカに1番多く輸出している。 ・中国への輸出が増えてきている。 世界で使われている日本の工業製品について考える。	「日本の輸出品の変化」のグラフに着目し、数十年前と現在とでは、輸出品や輸出相手国がどのように変わっていったか考えることができるようにする。 「輸出品の輸出先」のグラフに着目し、日本にとってアメリカが1番の輸出相手国であることをとらえることができるようにする。 世界で使われている日本製品や日本生まれのものにはどのようなものがあり、それが自分の生活とどれくらい関わりが深いかなんかを点数化することで評価し、友達と意見交換できるようにする。 評 日本の工業製品が、わたしたちや世界中の人々の生活に役立っていることについて考えている。 (思考・判断 ワークシート、発表)
	4	貿易のバランスがくずれたら、わたしたちの生活にどのような影響がでるだろう。 貿易相手国との貿易のようすについて調べる。 ・日本への輸出より日本からの輸入の多い国がたくさんある。 貿易のバランスがくずれたらどのようなことがおこるか予想する。 ・石油の輸入が減ったら、ガソリン代が上がる。 ・外国の服をたくさん輸入しすぎたら、日本の会社がつぶれてしまう。 バランスのとれた貿易をするには何が大切かを考える。 ・よく話し合っってルールを決めていく。	「日本のおもな貿易相手国」の資料に着目し、日本への輸出より日本からの輸入の多い国がたくさんあることやアメリカが日本の最大の貿易相手国であることをとらえることができるようにする。 教科書の「貿易のバランスのくずれから起こった問題」の事例を参考に、わたしたちの生活にどのような影響がでるかを考えることができるようにする。 教科書を参考に、バランスのとれた貿易をするには何が大切かを考えることができるようにする。 評 貿易のバランスがくずれることでわたしたちの生活にどのような影響がでるか、貿易のバランスをくずさないためにはどうしたらよいか考えている。 (思考・判断 ワークシート、発表)
	5 6	工業生産と貿易がわたしたちの生活とどのように結びついているのか、調べて分かったことや自分が考えたことをイメージマップに表してみよう。	イメージマップ作成の手引きを活用して、矢印や情報の島の記号を使いながら、学習課題について調べて分かったことや考えたことをイメージマップに表すことができるようにする。 思考操作をしやすく、分かったことや考えたことを付箋紙に書き、それらを動かしながら表すようにする。 評 情報の島や矢印などの記号を使い、学習課題について分かったことや自分が考えたことをイメージマップに表している。 (思考・判断 イメージマップ)
伝える	7	工業生産と貿易がわたしたちの生活とどのように結びついているのか、調べて分かったことや自分が考えたことをイメージマップを使って伝えよう。 自分の考えをグループの友達に伝える。 友達の考えを聞いて自分の考えの参考にする。 次の時間さらに調べてみたいことを考える。	イメージマップを見ながら、自分の思考過程が聞く人にはっきりわかるように自分の考えを伝えることができるようにする。 友達がどんな思考操作をして社会的事象をとらえているのかに注意深く聞き、これからの自分の学習活動の参考にできるようにする。 評 イメージマップを活用し、学習課題について調べて分かったことや自分の考えを伝えている。 (技能・表現 発表)
広げる	8	工業生産と貿易がわたしたちの生活とどのように結びついているのか、もっと知りたいことや新たな課題について調べよう。	児童の課題を把握し、課題解決に役立つような資料を事前に準備しておくことで、児童がスムーズに調べることができるようにする。 評 工業生産と貿易の働きや国民生活との関わりについて、グラフや資料を使って調べている。 (技能・表現・ワークシート)
まとめる	9 時	工業生産と貿易がわたしたちの生活とどのように結びついているのかをイメージマップにまとめよう。	前の時間に新たに分かったことや考えたことを付箋紙に書き、付箋紙を動かしながら思考操作できるようにする。 ひとつの面からだけでなく、いくつかの面から学習課題に対する自分の考えをまとめられるようにする。 評 工業生産と貿易がわたしたちの生活を支える重要な役割を果たしているかをとらえている。 (思考・判断 イメージマップ)

4 本時の学習

(1) 目標

新たに調べて分かったことや自分が考えたことをイメージマップに付け加えて表し、工業生産と貿易がわたしたちの生活とどのように結びついているのかをまとめることができる。

(2) 展開

学習内容・活動	指導上の留意点 評価
<p>1 本時の学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>工業生産と貿易がわたしたちの生活とどのように結びついているのかをイメージマップにまとめよう。</p> </div> <p>2 新たに分かったことや考えたこと、まとめたことをイメージマップに付け加えて表す。</p> <p>(1) 前の時間に調べて新たに分かったことや自分が考えたことをイメージマップに付け加えて表す。                      予想される児童の表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 輸入した石油からプラスチックや合成ゴムをつくり、それらをさまざまな製品にしている。</li> <li>・ 日本の自動車の輸出が増えているのは、日本の自動車を世界中の人が使ってくれるからだろう。</li> <li>・ 貿易のバランスがくずれると、わたしたちの生活にも影響が出るので、国どうしがよく話し合いをしてルールを決めていくことが大切だ。</li> </ul> <p>(2) 学習課題に対するまとめをイメージマップに表す。                      予想される児童の表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ わたしたちのまわりには、外国でつくられた製品や外国から輸入された原料でつくられた製品がたくさんある。</li> <li>・ 日本は、自動車や機械などの工業製品をたくさんつくり輸出している。日本の製品は世界中で使われ、人々の生活に役立っている。</li> <li>・ 貿易のバランスがくずれると、自分たちの国の産業がだめになってしまうなど、こまった問題がでてくる。貿易は、お互いの国を理解し合い、よく話し合っってルールを決めていくことが大切である。</li> </ul> <p>予想される児童のイメージマップ略例</p>	<p>前回使ったイメージマップに、調べて新たに分かったことや自分が考えたこと、学習課題のまとめを表していくことを確認する。                      矢印や情報の島の記号の意味をもう一度確認させる。</p> <p>思考操作をしやすくするために、分かったことや考えたことを付箋紙に書き、それらを動かしながら表すようにさせる。                      教師は、どの児童がどんなことを表したいのかを事前に把握しておき、上手く表せない児童には、「こんなふうに表したらどうだろう。」と、具体的な表現の仕方を助言する。                      早く終わった児童には、これまで使用したワークシートを振り返らせ、「この資料から他にも分かることはないだろうか。」など、他にも付け加えて表すことができないかどうか考えさせる。</p> <p>評 新たに調べて分かったことや自分が考えたことをイメージマップに付け加えて表している。                      (思考・判断 イメージマップ)</p> <p>わたしたちの生活との結び付きをひとつの面からしかとらえていない児童には、「輸入品」「輸出品」「貿易のバランス」など、他の面からも考えるよう助言する。                      うまくまとめられない児童には、イメージマップの中の「この言葉とこの表現を使ってみたらどうだろう。」と、具体的なまとめ方を助言する。                      数名の児童にどのようにまとめたかを発表させる。</p> <p>評 工業生産と貿易がわたしたちの生活を支える重要な役割を果たしているかをとらえている。                      (思考・判断 イメージマップ)</p>

